

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 明治安田生命福岡ビル建替	階数	地上14F 塔屋1F
建設地	福岡市博多区中洲5丁目82,83,84	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	826 人
地域区分	7地域	年間使用時間	5,475 時間/年(想定値)
建物用途	飲食店,集会所,ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2021年7月26日
敷地面積	1,835 m ²	作成者	山根信太郎
建築面積	1,455 m ²	確認日	2021年8月3日
延床面積	12,560 m ²	確認者	高山淳二



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 91% (167 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 91% (167 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 91% (167 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.6

Q2 サービス性能: 3.5

Q3 室外環境(敷地内): 3.7

LR1 エネルギー: 2.8

LR2 資源・マテリアル: 3.5

LR3 敷地外環境: 3.2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 川沿いの立地であることを最大限に生かし、そこに賑わいをつくり『街へひらく・街ともてなす・街とつながる』ホテルを目指す。		0
Q1 室内環境 開口部遮音性能に配慮した計画としている。 空調ゾーニングに配慮し、客室については冷暖房の選択が可能となるよう配慮している。	Q2 サービス性能 外部からの開放性を高めることで快適性の向上を図る計画としている。 内装計画・維持管理については使いやすさ等に配慮し計画している。	Q3 室外環境(敷地内) 外部緑化を積極的に採用し、景観形成に配慮した計画としている。 ホールは開放性に配慮し、また帰宅困難者の一時的な受入が可能となっており、施設機能提供による地域貢献を行う
LR1 エネルギー 高効率な設備機器を積極的に採用している。 エネルギーはBEMSにより計量し、各運用実績を把握できる計画としている。	LR2 資源・マテリアル 節水型機器の採用、また中水利用により節水の推進を図っている。 既存躯体を一部再利用する計画としている。 躯体材料以外のリサイクル材を積極的に採用する計画としている。	LR3 敷地外環境 空地には緑を配し、都市温熱環境の改善を図る計画としている。 広域の風シミュレーションを行い周辺地域への影響に配慮した計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される